

# セブ夏期研修

人間科学科 発達臨床心理コース 3年

まず、私が参加した主な理由は、大学生のうちに旅行以外で海外に行きたかったからである。そして、セブ研修ではマンツーマンで英語のレッスンができるという事に一番の魅力を感じて今回参加を希望した。三年生である事や、英語科ではないという事で参加を悩んでいたが、結果として参加して良かったと心から思う。

次にセブでの日々についてであるが、平日は主に学校に出向きマンツーマンレッスンを中心に6時間授業であった。マンツーマンレッスンは自分のレベルに合わせて教えてもらえること、周りを気にせずに集中できる事がメリットであった。3週間レッスンを受けたが、はじめの週はやはり自分の英語のレベルを知り、落胆した。しかし、時間は限られているのだから、切り替えてとにかく英語を使うことが必要だと感じた。そのため、英語を話せるようになりたいと一番に考えている人は、speaking や pronunciation を選択することをお勧めする。セブでしかできないことを優先すべきだと私は考える。そして、休日を挟むと休日は英語をあまり話さないため、また思い出しから始めなければならなかった。休日も外に出向き、またはオプションツアーに申し込んだりと、積極的に現地の方と英語で会話することが大事だと気づいた。

セブ研修では、寮で生活したのだがその生活も楽しかった。友人たちと一日中一緒に過ごすことは普段ではあまりないため、色々な面を見ることができ、より仲を深めることができた。そして他学年や他学科の人たちとも関わる事が出来たことは、とても刺激になった。また、親元を3週間離れて生活してことがなかったため、そこも新鮮であり、今後の自分のためになる3週間となった。

最後にセブ研修を通して、私が学んだことは自分から積極的に動くという事だ。動かなければ何も得ることはできない。恥ずかしがらないこと、人任せにしないこと、笑顔を心がけること、何事も楽しむこと、英語は重要であること、自分を知ること、そして日本やフィリピンのこと、私は今回研修に参加したから多くのことを学べた。そして考え方や価値観を広げることのできた研修であった。積極的に動いた結果、得られるものがあった。今後も学んだことを活かせるように、積極的に行動していきたい。



## フィリピン・セブ研修

人間科学科 発達臨床心理コース 3年

今回のセブ島研修は、日本では経験できないようなことや貴重な出会いに溢れた3週間だった。NILSでの授業の1週目は、マンツーマンレッスンにおいて先生と1対1で50分間も授業が行われることや、英語で英語を教えられるという日本では経験をしたことがない状況に戸惑いを感じた。さらにグループレッスンでは、自分の英語力の低さに悔しさと恥ずかしさを感じ、自信を持って参加することができなかった。しかし、日々の生活やレッスンで英語を聞き続けていること、お店やタクシーなどでも拙い英語力で頑張ってコミュニケーションをとることで、徐々に聞き取りができるようになっていった。そして、先生たちがオススメするセブのご飯屋さんやコスメなどの美容の話、お互いの家族の話などたくさんのお話を楽しむことができた。

また、セブでの生活では信号がないため自分のタイミングで道路を渡ったり、移動でジブニーを使ったり、バイクタクシーで3人乗りをしたりして日本では経験できないことが出来てとても楽しかった。

そしてセブに3週間滞在していると、ストリートチルドレンに声をかけられたり、タクシーに乗っている時に物乞いの人にお金を要求されたり、野良犬がいたり、やはりここは発展途上国なのだと感じる場面もたくさんあった。また、信号機や水道などインフラが整備されていないにも関わらず建設中の高層ビルがたくさんあり、同じ国の中でも格差や矛盾が大きいと感じた。しかし、セブはお店で働いている人やすれ違う人々がとても楽しそうところが印象的だった。日本は物理的には恵まれているはずなのに、多くの人が疲れた顔をしていて、実際、仕事や学校にストレスを感じている人がたくさんいる。私はこれまで日本ほど恵まれた国はないと思っていたが、セブの幸せそうな人々を見て、日本は本当の意味でよい国だといえるのかと疑問を持った。これも、セブに行かなければ気づくことが出来なかったことかもしれない。あつという間の3週間だったが、この経験を忘れずにまた成長した姿でセブ島に戻りたいと思う。



【マンツーマンレッスンの先生と】



【ボホール島でのバギー体験】



【USPFで出会った小学生】

## セブ島研修を通して

人間科学科 発達臨床心理コース 3年

セブ島で過ごした22日間は、私にとって貴重な経験になりました。研修に行った理由としては、正直、英語を学びたいからというよりも「この経験が自分の糧になればいいな」と思って参加することを決意したので、セブ島に行くまでは不安でいっぱいでした。何しろ、海外に行ってみみたい気持ちはあったものの日本を離れることは夢物語かのように思っていましたし、英語に強い苦手意識を持っていて英語を避ける生活を送っていたため、中学英語すら危うかったからです。

とは言え、例え文法は崩壊していたとしても単語を並べ、ジェスチャーを交えれば(所謂、度胸英語)何とかなるとは思っていましたし、文化の差には驚くことも多いだろうけど適応出来ると思っていたため、日常生活を送る上での不安はありませんでした。しかし、英語を英語でみっちりマンツーマンによって教えられることは想像するだけで私にとってはかなり憂鬱なもので、セブ島に行くまでは「海外に行く決断を早まったかな」と頭を抱えながら生活を送っていました。

でも、実際にNILSに通ってみるとそんな心配もすぐに消えてしまいました。NILSの先生方はフレンドリーな人が多く、単語でしか話せない私にもしっかりと聞く姿勢を取って下さり、「英語が全く分からない」ということを伝えるとジェスチャーや簡単な単語を用いた例え話で意思疎通を図ろうとして下さったため、細かいところは難しくとも、会話が出来なくて萎縮することも不安になることもありませんでした。

勿論、先生の気質や教え方が合う・合わないという問題はあったけれど、私の担当になった先生方は優しい方ばかりでした。特に、私には大好きな先生が居り、講義中にその先生と話したいことが伝えられないのが悔しくて、もどかしくて、単語を調べる時間が勿体なくて、(当たり前ではあるけれど)文法が正しくないと相手に言いたいことが正しく伝わらなくて、「もっともっとこの先生とお喋りしたい」となれたからこそ、寮に帰ったら自主的に英語の勉強をしました。英語が嫌いではなくなったのはこの先生のお蔭です。



日本に居る時は、私にとって英語は理解が出来ない「強要されるもの」であり、「机上だけもの」であったのが、このセブ島での研修を通して「誰かに自分の想いを伝えられる言葉」になりました。この、英語が自分の中で「言葉」になった感覚を忘れず、またいつの日かあの先生とお会いしたときに、これまで経験してきたことを沢山話せるように英語の勉強を積み重ねていきたいと思います。

## セブ研修で学んだこと

人間科学科 発達臨床心理コース 3年

3週間のセブ研修を通して、マンツーマンの英語の授業や文化交流、チャリティー活動など普段はなかなか経験できないような体験をたくさんすることができた。また、オスロブでジンベイザメと泳いだりボホール島をまわったりなど、ツアーや観光を通して今まで知らなかったフィリピンのいいところをたくさん知ることができてよかった。大学を見学したり小学校にいて子供たちと触れ合ったりして、日本とフィリピンの異なる点や共通点をたくさん発見できたのも面白かった。知れば知るほどフィリピンのことが好きになっていき、最後は帰るのがさみしいと感じるほどであった。

3週間セブで生活してみて私が一番感じたことは、フィリピンの人たちは本当に明るく前向きで、自分の芯をしっかりと持っている人ばかりだということだ。先生たちはいつも笑顔で楽しそうにしている、見ているだけで元気をもらうことができた。授業では、先生方から三週間の間ずっと「シャイにならずに自分らしく」という言葉をかけてもらい、そのおかげで少しずつ自分を出せるようになっていった。先生方は本当に優しく、私のつたない英語もきちんと聞いてくれて、少しずつコミュニケーションがとれるようになっていったのが嬉しかった。もともと英語が得意な方ではなかったのでマンツーマンの英語の授業は不安でいっぱいだったけど、最後にはどの授業も楽しくて仕方なくなっていて、それも全部先生方のおかげだと思う。実際に英語を話して、海外の方とコミュニケーションをとりながら行う授業は本当に大きな自信につながった。

この研修に参加して、本当にたくさんのもので得ることができたように感じる。はじめは英語力を向上させたいと思ってこの研修に申し込んだけど、英語を話すことに自信がただけでなく、日本と違う文化に触れて価値観も少し変わったし、先生たちの言葉のおかげで物事を前向きに考えて積極的に行動できるようになった。また、海外により関心を持つようになり、もっと英語を勉強していろいろな国に行きたいと思うようになった。セブ研修で学んだたくさんのことを忘れずに、これからに活かしていこうと思う。



研修期間 8月18日～9月8日

## 2019年度セブ夏期研修

現代社会学科 メディア社会コース 3年

今回私は、高校生で学んだ英語をもっと実用的に使えるようになりたいと思い、この研修に参加した。高校の修学旅行でシンガポールに行ったとき、全く現地の人と話せなかったからだ。他にもアルバイトで外国人のお客さんが来たときも全く対応できなかった経験がある。

初日は、韓国に行った。一時期 K-POP にハマっていて、すごく興味があったし、授業でも学んでいたので実際に文字が読めたりしたときはとても嬉しかった。焼肉もとても美味しかった。

フィリピンに着いたときは想像よりも発展途上でゴミなどがたくさんあり、驚いた。しかし、すぐに慣れることができた。初めは日本と違って細かいルールなどがほとんどなく戸惑ったが、先生たちがフレンドリーですぐに溶け込むことができた。ボランティアで現地の小学校に行ったときは、とても発展途上で驚いたが、鬼ごっこをするだけでとても楽しそうにしてくれる子供を見て「こういう幸せもあるんだな」と感じた。そして、お腹を壊した。

セブ市内でも市場や教会を観ることができた。週末にはボホール島に行ってクルージングも楽しむことができた。海が日本とは比べ物にならないくらい綺麗だった。



3週間の研修を終えて、以前よりも積極的になれたし、トランスジェンダーの先生もいるということで文化の違いも学んだ。セブに来るまでは日本は恵まれていると思っていたが、必ずしも環境に恵まれていないと幸せにはなれないという訳ではないということを知った。

英語も、発音が違うと通じないので発音も上達したし、たくさん英語で買い物などをしたことでこれから自信を持って英語が使えるような気がする。

## セブ島研修

現代社会学科 メディア社会コース 3年

今回のセブ研修は私にとって初めての海外でした。大学在学中には絶対に海外に行ってみたいと考えていたのでやっとお金が貯まり行くことが出来ました。

トランジットツアーでの韓国は、事実上初の国外だったので空港に着いて全面文字がハングル文字だったことがとても新鮮でした。美味しい焼肉を食べた後にまわった韓国の街では、すれ違う時に聞こえてくる会話が日本語だったりすると少し安心していました。



セブ島に着いてからは、入国審査の時韓国では機械化で押されなかったスタンプを押してもらえたことがまずうれしかったです。でも、着いた寮のまわりを見渡して、日本とは全然違う異国の地だと改めて実感したときは家に帰りたくなりました。翌日、ニルスの先生方と初めて会って、全く何を言っているのかは分からなかったけれどもとても愉快的な人たちだと思いました。セブに来て2.3日は英語を聞き取ることに必死で夜は頭が疲れてすぐに寝ていました。それでも2週目にはマシになってきて、意味は分からないけれど一応聞き取れるぐらいには慣れてきました。3週目では授業外でも先生たちと多少の会話をすることもありました。周りには英語科の子たちがたくさんいたので、わからないことに焦っていましたが先生たちはゆっくり私の話を聞いてくれるので少しずつ文章で話すことができるようになりました。発音もネイティブな声を生で聞いて会話ができることがとてもよかったです。授業の中で先生たち自身も洋楽や洋画を見て英語を勉強したことがあるといって私にも勧めてくださったので、日本に帰ってからはよく海外映画や英詞のバンドの曲を見聞きしています。

この3週間は、日本では体験することのない日常を目の当たりにして刺激や衝撃をととても多く受けました。例えば信号のない道路を車が通っているまま渡ったり、お金をこう人がいたりすることです。また、刺激を受けたのはセブだけではなく、筑女以外の学生や日本人の方からもでした。小学校のボランティアの帰りにフリーランス保育士の方が話されていた教育や教養の話や保育士がすべきことなど、今の自分や将来自分に子供が出来た時こうしてあげたいなど考えさせられることがたくさんありました。これからは今の自分に続けられることと、活かせることを整理し、就活にも活用したいと思います。無事就活が終わった時には、また別の研修にも参加出来たらなと思っています。



## セブ島短期留学を終えて

英語学科 2年

8月18日～9月8日の約3週間、セブ島に研修に行き大きく分けて3つの事を学んできました。

1つ目は、フィリピンの方々には心から優しくとてもフレンドリーであるということです。私は初めての海外だったし、治安があまり良くないと伺っており勝手に偏見を持っていましたが、そんな心配など必要なかったくらいに素晴らしいところでした。道を歩いているだけで「Hi!!What your name?」と声をかけてくれたり、ご飯を食べていると一緒に食べようと合流してきたり、日本では経験することのできないようなことがたくさんありました。また、私たちがかよったNILSの学校では面白い先生たちばかりで、恥ずかしがり屋の日本人の英語をどんどん引き出してくれました。おかげで英語を話すのに抵抗がなくなったように感じます。



2つ目は、1日中英語に触れて自分の意思をどうにかして伝えようとする姿勢が大切だということです。フィリピンの学校の先生に日本語は通じないため、できるだけ簡単な単語に置き換えているような方法で伝えようと頑張りました。伝えようと必死で文章を考へることや、伝わるように説明する工程がとても大事なのだと改めて思いました。1日5時間のマンツーマンレッスンと1時間のグループレッスンには、ずっと英語を聞いて話しての繰り返しだったため毎日充実感がありました。こんなにずっと英語に触れていられる時間は滅多に経験できないので毎日毎日とても楽しかったです。1週間目の終わりくらいから、今までより英語が聞き取れるようになってきたと実感し始めました。やはり今までの日本での授業でアウトプットをしてきていないので、聞き取れても話すのが上手になるのにはまだまだ時間がかかりそうですがこの研修を機にもっともっと勉強したいという気持ちが大きくなりました。

3つ目は、フィリピンの文化や現状についてです。私たちはチャリティーイベントに参加しました。可愛い子供達とたくさん遊んで癒されました。中には、とても貧しい暮らしをしていると話していた子もいました。私たちにできることは数少ないかもしれないけれど、とても楽しんでいる様子が見られてとても嬉しく思いました。また、道を歩いていると裸足でタオルを売っているストリートチルドレンを見かけたこともありました。このような子供達を見てすごく胸が痛みましたが、私たちは文化や今置かれている現状をしっかり理解することが大切だと思いました。

私はこの3週間を通してすごく大切な財産を手にしたような達成感を感じています。英語はもちろんなのですが、それ以外でも学んだことが多かったです。今回の研修で人としてもかなり成長できたと自負しています。

## セブ研修

英語学科 2年

私はセブ研修でさまざまな経験をしました。英語学習はもちろんセブの観光スポットや現状を知ることができました。

授業形式がマンツーマンレッスンなのでわからないところがあればすぐに聞くことができました。そのため学んだことがその場でしっかりと身になりました。授業科目は5種類ありその中から自分が受けたいものを選べることができました。私は英語で話せるようになりたいと考えていたので Speaking と Vocabulary の授業をとりました。Speaking の授業では教科書に載っている様々な社会問題に対して自分はどう思うか意見を述べたり、先生と雑談したりしました。英語を話すということが目標の授業のためとにかく英語で話していました。最初のころは単語が分からなかったり先生の言っていることが分からなかったりとスムーズに会話することができませんでしたが、授業しているうちに耳が慣れてきて聞き取りができるようになりさらに表現方法も増えてきて自分の言いたいことを伝えることもできるようになりました。Vocabulary の授業ではよく日常会話で使うけれどあまり知られていない英単語を教えてもらえます。語彙力を上げたい人にはおすすめです。

また、セブの治安はいいところと悪いところの格差が大きいと思いました。ショッピングモールの中は日本と同じようにきれいで広くて驚きました。しかし、寮からショッピングモールに行くまでにストリートチルドレンやお金をねだってくる人がいたり道路が整備されていなかったり治安はあまりよくなかったです。

この研修を通してさまざまな思い出、経験が出来ました。不便と思うところは多少ありましたが、行ってよかったと心の底から思います。行くか迷っている方がいればぜひ参加をおすすめします。一夏の忘れられない思い出が必ずできると思います。





私はセブで過ごした三週間でたくさんの貴重な経験をしました。日本とは違う初めての環境や文化に触れて、最初は驚きや戸惑いもあったけど、新しい発見の日々でとても新鮮でした。

平日はフィリピン人の先生とマンツーマンレッスン、そしてグループレッスンをしました。初めはみんなの前で英語を話すことに抵抗があったけど、先生がいつも言われていた“Don't be shy”という言葉のおかげで、間違えてもいいからとにかく英語で伝えてみようという前向きな考え方ができるようになりました。フィリピンの人たちはポジティブで明るい人が多くて、日々とてもいい影響を受けることができました。この前向きな姿勢を学べたことが何よりも良いことだったと思います。授業だけでなく、休憩時間に先生とおしゃべりもとても楽しくて、少しずつ英語力の伸びを実感できたことが嬉しかったです。



土日は、オプションツアーでマクタン島に行ってシュノーケリングをしたり、とても大きいモールに行って買い物をしたりしました。

念願のセブの海はこれまでに見たことがない美しさでとても綺麗でした。現地の人と会話をしながら観光名所を回ったりご飯をたべたりもしてとても充実した週末を送ることができました。自分たちでタクシーやジブニーに乗ることなど全てが勉強になりました。

また、USPFで現地の学生とバレーボールをしたり、チャリティーで子供たちと遊んだりもしました。子供たちがフレンドリーで本当に可愛かったです。現地の子供たちと触れ合うことができたのはとても貴重な経験になりました。



このセブ研修を通して、本当にたくさんのことを学びました。英語力の向上だけでなく、英語を学ぶために必要な姿勢や何事にも挑戦することの大切さも教えてもらいました。フィリピンの人たちの温かさにも触れることができ、とても充実した三週間になりました。セブ研修に行って本当に良かったです。



私は今回の研修でたくさんを経験しました。まずは英語での授業です。今まで英語で授業を受けたことがなかったので不安でした。しかし優しく、面白い先生方のおかげで楽しく学習ができました。行く前と比べると特にリスニング力が上がったと思います。早く英語に慣れたいと思ったので、寮でも友達と英語で話すようにしていました。最初の頃は理解することができませんでしたが、だんだんと聞き取ることもできるようになりました。南フィリピン大学ではフィリピンのマナーとパーソナリティーについて学びました。難しい授業でしたが、友達の意見を聞きながら楽しく学ぶことができました。フィリピンのマナーによると、年上の人を敬うという意味を込めて年上の人の手に自分の額をつけるそうです。このように独自のルールがあることを学び、フィリピンについて深く学ぶことができました。また南フィリピン大学ではフィリピンの民族衣装を着たり、学生と話したりしてとても貴重な体験ができました。

次に、とても印象的だったのはフィリピンの小学校に行き、子供たちに日本語を教えたことです。とても楽しそうに聞いてくれたので、嬉しかったです。授業の後是一緒に遊びました。英語が話せない子もいて、会話はできませんでしたが、一緒に楽しむことができました。小学校の設備は日本の小学校のように整っているものではなく、野良犬や虫がいる中で勉強していました。また小学校に行く道中でストリートチルドレンに遭遇しました。日本では見ることのない光景に驚きました。これらのことから日本はとても恵まれている国であること、世界には私たちが当たり前のようにしていることをできない人がいるということを実感しました。これから私にできることを考えるきっかけとなりました。

学校が休みの日は友達と買い物に行きました。Wi-Fiを持っていなかったので道に迷ったときは現地の方に道を尋ねました。優しい人が多く、親切に教えてくれました。学習した英語を活用することができ、とても良い経験になりました。

海外に行くのは今回の研修が初めてのことで、とても不安でした。しかし先生方や現地の方がとても優しく、陽気で私もリラックスして過ごすことができました。フィリピンでの経験は日本ではしたことのないものばかりで戸惑うこともありましたが、とても成長できたと思います。



## 語学研修 in Cebu

日本を出て3週間も異国の地に行って、自分自身の考え方や気持ちがこんなにも成長出来るなんて思いもしなかった。

日本を出発する時、友達や知っている人はいるとは言え、訪れたことのない国に行くのはとても不安だった。ましてや知っている人以外が何年生かも知らなかったので、自分がこの集団の中でうまくやっていけるかどうかの不安もあった。

日本を出て約7時間後セブ島に着いた。自身の先入観フィリピンの人々は怖そうと勝手に思い込んでいたが、いざ交流してみるとそんなことは全くなく、むしろ目が合えば微笑みかけてくれる、日本では出来ない経験ができた。フィリピンの人々は常に笑顔でそれを見て私も幸せな気持ちになれた。

私はTOEICの勉強の目的でセブ島の語学研修に参加しようと思ったのだが、いざ現地に着くとSpeakingの授業を受けたくなり3週間の内の最初の1週間はSpeakingにして残り2週間はTOEICの授業にしようと思った。Speakingの授業は、内容は少し難しいが先生と会話が出来、そのトピックに合わせた様々な楽しい話を聞くことができる。Speakingの授業を通して先生と仲良くなれる。そして科目・先生の変更は自分で出来るため2週間目、私はTOEICの授業に変更した。正直言って日本でやっている事と変わらなかったの3週間目、私はSpeakingの授業にまた変更し直した。先生の都合で勝手に変更されることもあるが、私の場合2人の先生は3週間の間変わる事がなかったのとても仲良くなれた。話がしたいと思う人はSpeakingの授業を取る事をおすすめする。

とにかくフィリピンの人々はジョークが好きでいつも笑いの雰囲気を作ってくれるので仲良くなるのに時間はかからなかった。しかし明るい反面、ストリートチルドレンなどの貧困問題があるのも事実。休日、外を歩いていると何人かに声をかけられた。日本人は可愛そうと思って買ってしまいそうになるが、決して買ってはいけないと言われた。他にも様々なそういった経験をした。

この3週間で日本とフィリピンの文化の違いや、人々の性格の違い、フィリピンの情勢について学ぶ事ができた。フィリピンに行っていかに自分が恵まれた環境にいるのか改めて理解できたし、フィリピンの人々から多くのことを学べた。これからはDon't be shyの精神を忘れず、向上心を持って勉学に励んでいきたいと思った。



## セブ研修に参加して

去年の夏、ボランティアとして行ったネパールで自分の英語力の無さに気付きもっと英語に触れたい、学びたいと思い今回のセブ研修に参加することを決めました。

セブ島での3週間は、日本とのギャップに驚きつつも毎日新鮮な生活で、本当にあつという間だったように感じます。レッスン初日は緊張や不安ばかりでとにかく必死になっていたけど、徐々に授業にも慣れていき、先生方ともかなり親しくなることができました。マンツーマンレッスンという内容に惹かれてこの研修を選んだため、実際に先生と1対1で英語を学ぶことが出来たのは本当に貴重な経験であり、英語力の向上に繋がったのではないかと思います。もちろんグループレッスンも楽しかったけど、人が増えると自分の考えを述べにくくなってしまっているので、自分しか答える人がいないという環境の中で学ぶことができるのは、とても勉強になるなと感じました。そして私がこのセブ研修の中で最も印象に残っていることは"Don't be shy."という言葉です。3週間の間に私たちが何度も何度も先生方に言われた言葉だと思います。私自身も上記で述べたように、人前で話したり、自分の意見を述べたりすることは得意ではないのでこの言葉に敏感になっていたと思います。皆の前で堂々と話せるようになりたいと思っている反面、手を挙げたり、自分の考えを発表したりすることが苦手で、今まで躊躇してしまうことが多かったです。しかし、先生方のこの言葉にかなり勇気づけられ、日本にいる時よりは自分の意見を述べる事が出来たのではないかと思います。苦手なことでも少しずつトライしていけば、苦手意識がなくなっていくと先生方も仰っていたので、苦手だからと逃げるのではなく、積極的に発言できるように頑張っていきたいと思いました。

また、英語の授業の他にも USPF という学校に行ったり、チャリティーに参加したりと、現地の学生や子供たちと交流することができたことがとてもいい経験になったと思います。この写真は USPF で子供たちと交流している時のものです。みんな無邪気で笑顔が素敵で、言葉がうまく伝わらない中でもとても楽しい時間を過ごせました。この写真の中に日本語を勉強している少女がいて、日本語の挨拶や短い言葉が書いてあるメモ帳を見せてくれました。わたしも英語を学びたい気持ちは強いけど実際に英語話者と話せる機会はあまり多くないので、ネイティブスピーカーと話せることはとても大切なことだと思います。だから彼女にとっても私たち日本人と話したことが、少しでも日本語の勉強への意力になってくれたら嬉しいです。



今回のセブ研修は英語の勉強だけでなく、日本にいたら経験できないこともたくさん経験できたし、同世代の人との交流で多くの刺激をもらえた3週間でした。英語は聞き取れているのに自分の意見を英語で述べる事ができないもどかしさや悔しさを感じる事が多かったので、この感情を忘れることなく英語の勉強に励んでいきたいと思っています。

## 初めての海外！初めてのフィリピン！！

英語学科 2年

8月18日～9月8日の約3週間は私はフィリピンで過ごしました。初海外ということでも不安でしたが、ずっと前から海外へ行きたかった私は、それ以上にきっとわくわくしていました。英語を勉強するために留学したフィリピンですが、この3週間で色々なことを感じ、体験しました。まず、フィリピンの人たちの明るさには驚かされました。大学の授業でフィリピンの人々が明るいことは習っていたのですが、想像をはるかに超える明るさでした。道路で見知らぬ日本人の私達を見かけると、おかまいなしに声をかけてくれて「なんだこれ！！」と、日本では絶対に見ることのできない光景にとっても感動しました。通り過ぎる人すべてと喋っていいほど、挨拶をしてくれたり、車の中から手を振ってくれたりしました。日本も携帯電話ばかり見ていないで、もっと他人と直接コミュニケーションをとれる国になったらもっと幸せな国になると思いました。

また、学校の先生方もいつも明るくたくさん励ましの言葉をかけてくださいました。先生方からは、英語以外にも自分の意志や思っていることを相手に言葉で伝える大切さを学びました。私は最初、英語を口にするのに恥ずかしさを感じていたけれど、そんなのどうでもよくなるくらい、まっすぐに先生方は向き合ってくださいました。



でも、フィリピンには良いところが本当にたくさんあったけれど、ちゃんと向き合っていかなければいけない問題も多く抱えていることを実感しました。私を感じたのは、裕福な人と貧困で困っている人の差がとても大きいということです。左を見れば、タピオカを飲んだり、映画を観たり何不自由なく生活を送る人がいて、右を見れば、住む家がなく、食べる物さえも手に入らない人がいました。学校に行けない子が当たり前前に存在していて、靴を履いていない子だって当たり前前に存在している国でした。そんな人々を見ると、何もできない無力な自分にとっても悲しくなりました。でもそんな経験をしたからこそ、私はもっといち早く英語を身につけようと思えました。英語が話せなければ、自分にできることが見つかったとしても、相手に伝えることができないと思います。だからまずは、英語を必ず自分のものにしてほしいと思います。

このようにフィリピンに行ったからこそ気づくことがたくさんあって、私は気づいたことを考えだけで終わらせないように、アクションを起こしていきたいです。

私は今回のセブ研修に参加して、自分の考え方や物の見方が変わったと感じた。

研修に行く前では人と合わせればどうにかなると思っていた事があったが、研修に行くと、自分が言いたい事や伝えたいが沢山出てくる事や日本とは違う国にいたので言わなければいけない事があったからだ。また物の見方に関しては、日本とフィリピンの環境の差がハッキリしていることがきっかけである。日本では当たり前だと思い、やってきたことが、フィリピンでは全く当たり前ではなかったりし、日本は恵まれている国だと改めて感じた。

フィリピンでは日本語通じないので、知っている単語だけでも伝わるように身振りで色々伝えようと頑張って伝えようとしたら、それだけでも伝えてる事が出来たので、何事でも挑戦してみてもいいのではないかと思った。

3週間現地で過ごして1番印象に残った事は、南フィリピン大学との交流と現地の幼稚園生に日本語を教える事だった。南フィリピン大学では、先生から沢山の事を教えて頂く事が出来、とても勉強になった。またそこで得た事は忘れてはならない事だと感じた。そのことから日本でもあるように、「みんな違って、みんないい」とはこういう事だったのかと気づかされた。現地の幼稚園生との交流では、言葉が通じない事が多々あったが、最初のうちは打ち解けてくれなかったが、身振り手振り伝えたり、遊びを通して沢山の事を伝える事が出来たのではないかと実感している。最初とは違い、最後には笑顔になっていたのが証拠なのではないかと実感した

3週間ではまだまだ足りない事や知りたい事があまり知れない事が多かったが、少しでも自分がやりたい事ができてよかったと感じる。英語が伝わらなくて困った事はけれど、焦らずゆっくり伝えようとしたりする事は大切だと気付かされた、挑戦は大丈夫な事だと思う。またそこで出会った先生や新しく出来た友達とはいい経験になったと思う。



## フィリピン研修を通して

私が今回この研修に参加した目的は3つあります。1つ目は、長期留学に向けて海外生活を体験すること。2つ目は日本との違いを感じることに。3つ目は、英語のスキルアップをすることです。

私はこの先の大学生活を通して長期の語学研修に参加することを考えています。しかし今まで海外留学の経験がなく、いきなりの長期の海外生活はとても不安に感じました。そこで今回3週間という短い期間ですが、初の海外の暮らしに挑戦してみようという気持ちで参加しました。初日着いたときはすでに深夜でこれからのフィリピンでの3週間の生活がとても不安でした。しかし着いたときに温かくス



ッフの方が迎えてくださって安心することができました。現地での生活は、戸惑う面もありましたが私は比較的早く慣れることができました。寮から学校まではジプニーという現地のバスのようなものが出ていましたが、たまには歩いて行くこともありました。近い距離でしたが感じたのは日本との交通環境の違いでした。もちろん道路の状態や排水設備の差も感じることもありました。そしてタクシーでの移動中、信号で止まっていると物乞いの人が窓を叩いてきてびっくりするようなこともありました。けれどフィリピンでの生活はとても快適でした。現地の人はとてもフレンドリーで、明るい性格でした。なんだか私まで少し明るくオープンな性格になったように感じました。

授業は主にマンツーマンレッスンで、自分のレベルにあった授業を受けることができました。わからないことがあっても、わかるまで丁寧に教えてくださいました。最初の週は全然英語が出てこなくて、先生から「どんどん話して!」と言われてばかりでしたが、帰るころにはつたない英語だけど1時間先生とずっとしゃべっているような状況でした。セブのマンツーマンレッスンは、大人数の授業と違い先生とずっと話すことができ、言い間違いや発音などひとりひとり細かくチェックできるところがとても良いと思いました。そのほかにもチャリティーをしに現地の小学校に行ったときは、フィリピンの遊びを教え



てもらったり、週末には海なきれいなセブでアクティビティを楽しんだりしました。大学交流では日本とフィリピンの学校制度の違いや、国際マナーや接客体験、伝統的な踊りを学ぶことができました。

私にとってこの研修は、初めての海外生活、初めての留学と初めてのことばかりでした。語学力をアップさせることができただけでなく、多く新しいことを見てたくさんを感じることができました。そして、日本とは違った海外の雰囲気などを初めて感じてとてもワクワクしました。この研修を通して、4年間の大学生活でできるだけたくさんの新しい経験をして、自分の視野を広げたいと思いました。そのためにたくさんの方に挑戦したいと思います。



## セブ島研修レポート

英語学科 1年

2019年度セブ島研修（8/10-9/18）に参加しました。

日本とは言語も文化も違い、様々な点で驚くことがたくさんありました。最初に驚いたことは言語です。フィリピンの母語は英語だと思い込んでいました。しかし違ったのです。「タガログ語」というものでした。フィリピンの公用語としては英語とタガログ語みたいで、フィリピン人同士で話す時はタガログ語、お店にいる時や外国人と話す時は英語と使い分けているみたいです。フィリピン人は言語習得能力が高いなと感心しました。フィリピンでは6歳くらいの子供達でも英語を話せるのです。聞くところによると小さい頃からみんな英語を学ぶみたいですね。日本でも同じ制度を取れば今よりも随分スピーキング力が上がると思ったり...

日本人はかなりぼったくりに遭いやすいです。タクシーは特に。メーターを使わずに「1人200ペソね」って感じで徴収されたり(本来ならもっと安いです)

フィリピンのタクシーでメーターを使ってくれないドライバーさんに出くわしたら即座に降りましょう。

セブ島は海が本当にきれいで、「生きてよかったな」とか「将来親に見せてあげたいな」とか思うことがたくさんありました。セブ島に行った場合はぜひ行かれてみてください。ちなみに、右の写真のクマノミちゃんは「スミロン島」という場所です。



セブ島での食事は毎回左の写真のようなジャンクフードでした。私に限らずほかの子もそんな感じだったと思います。韓国料理は見かけても、日本料理などは滅多に見かけません。それにお米がタイ米なので、あの独特なパサつき感や香りが苦手であるならば、レンジで温めるだけの小分けの白ご飯やフリーズドライの味噌汁を持っていくことをお勧めします。

フィリピン人は陽気な人が多いですし、物価が安いので本当に楽しかったです。英語も上達したと思うので行ってよかったと思いました。



## フィリピン研修に参加して

私は2回目の海外でしたが、セブは観光地で有名ですがストリートチルドレンもいるし、日本のように綺麗な環境ではないと聞いて少し不安になりました。しかし、マンツーマンで楽しく英語を学ぶことが研修の中で一番楽しみにしていたことなので、はやく行きたいと思うようになりました。実際セブに行ってみると、事前に言われていたことよりも想像していたよりも生活しやすかったです。

まず、NILS についてです。NILS ではマンツーマンレッスンとグループレッスンを月曜日から金曜日まで約 5 時間ずっと英語だけで勉強していました。私が特に受けてよかったと思う授業は Grammar です。文法を英語で説明されるので、最初は理解することが難しかったです。しかし、三週間続けると少しずつ理解でき、勉強することが楽しく感じました。先生が面白い例文を作ってくれ、文法の説明をしてくれるので飽きずに勉強ができました。日本では文法を学ぶことが楽しいと思ったことがありませんでした。文法を楽しく学ぶ勉強の仕方がわかった気がするのでこれから勉強する時に例文を自分で考えたり、文法を英語のまま理解したりすることを心がけていこうと思いました。

次にフィリピンの人々についてです。私が出会ったフィリピンの方達はほんとに明るくて、歌が大好きな人ばかりでした。NILS の先生たちはいつも元気で歌って踊って、私たち生徒を楽しませてくれました。また初めて出会うタクシードライバーやコンビニの店員さんなど笑顔で挨拶をしてくれ、色々話しかけてくれたので英語の勉強にもなりました。また、フィリピンでトランスジェンダーの人を街で多く見かけました。一番驚いたことは、チャリティイベントで小学校へ行った時、トランスジェンダーの子がいました。もしここが日本ならこの子はいじめられていたかもしれないと私は思いました。現在の日本では LGBT の方をすぐに受け入れられる人はまだ少ないと思います。だからフィリピンに行き、誰も偏見をもたずに生活していることがとても素晴らしいなと思いました。

最後にセブの観光についてです。私は 3 週間という短い時間を無駄にしないように心がけました。近くのスーパーを調べて歩いて行ったり、タクシーに乗ってショッピングモールに行ったりしました。特に行ってよかったと思う場所が二つあります。1つ目は、ジンベイザメと一緒に泳ぐことができるツアーに参加したことです。間近でジンベイザメを見ることができ、またカクレクマノミや大きなサンゴなども見ることができました。海も綺麗で見ただけでとても癒されました。2つ目は、カワサンフォールです。セブでとても有名な観光地でたくさんの観光客がいました。水が真っ青でとても綺麗でした。また日本では絶対しない 10 メートル以上の場所からの飛び込みにも挑戦しました。どちらも寮からは遠いですが、行くべき場所だと私は思いました。

私はフィリピンに行って、積極的に行動すること、挑戦することができました。これから日本でも学んだことを生かし、積極的に行動することを心がけていきたいです。

# セブを感じ、学び、得たもの

英語学科 1年

セブでの3週間は私にとって何もかもが“挑戦”でした。親元を離れ自力での生活。海外の長期滞在。言語も文化も全く異なる環境。日本でゆるゆると過ごしてきた私にとって、この研修に参加すること自体が自分を変えるチャンスだという意気込みでセブ研修に申し込みました。そしてセブで私が得たもの。それは英語スキルのみならず、自分の内面から変えてくれるものを学べたと思います。抽象的ではありますが、本当に学んだことが多すぎて言い足りなくなるほどセブの生活は濃いものでした。ですから、この文集を読んでいる読者の方には私たちの体験談からどんなことを私達がどんなことを学び得たのか一緒に感じて欲しいと思います。

まず、研修中通う学校にはとってもハイテンションなトランスジェンダーの先生方がいます。先生たちの口癖は「Don't be shy!」。アクティブな授業の中で日本人の控えめな性格は英語を学ぶ上でも適していません。授業では積極的な姿勢、自己主張、オーバーリアクションが求められ、そうした授業がいかに関心を持って自分たちを高めてくれるか痛感しました。休日中は、自分の持つ英語スキルを活かして旅に出ました。交通機関を利用するにもご飯を食べるにも英語だらけの世界で、自分の英語力を図るには本当にいい機会でした。セブは観光スポットが多くあるので、休日はなるべく外に出て英語をたくさん使う機会を作るようにしていました。またボランティアでは子供達に日本語を教え一緒に遊び交流をしました。子供達の学ぶ教室は室内とは言い難いほど簡易的な体育館のような施設です。しかしそこで学ぶ子供達の姿は一生懸命で、日本での自分を省みて見習うところがたくさんあるなど気づかされました。セブではそういった貧しい子供達の問題は深刻で、「ストリートチルドレン注意」という張り紙も目にします。フィリピンは所得格差がはっきりと見える国でもあり、高層住宅が並ぶ町の片隅で生ゴミを漁る人々も見かけます。そのなかには子供の姿も。そんな人の数の多さに何もできない無力さに気付かされる体験もありました。楽しいだけでなく、社会問題や自分の内面に向き合えたこの研修に参加できたことを今では誇らしく思います。



私は今回夏休みを利用してセブ研修に参加してみて、普段日本で生活して英語を勉強することだけじゃ得ることの出来ない体験や有意義な時間を過ごすことが出来ました。今回私が研修に参加したいと考えた動機は2つあります。1つ目はオールイングリッシュで授業を受けてみたいと考えたからです。日本で勉強していると、日本の先生が日本語を使って教えて下さると思います。しかし私は書く英語よりも話す英語の力を伸ばしたいと思い外国の先生から英語の説明で教えて頂き、生きた英語を日常の中で聞きながら学びたいと考えました。2つ目は私自身、今まで日本より外に出たことが1度もなく、世界を狭く見ていました。だからこそ今回海外にでて参加することで視野を広げ自分の考え方を広げたいと考えました。今回の研修が初海外ということで出発するまでは、海外に行くことがこんなにまでウキウキしないことなんてあるのか、というくらいとても不安でした。空港では税関を通ったりパスポートを見せたりと海外に行く前から既に学ぶことが多く、戸惑いながらの出国となりました。1度日本を出てみると友達や先輩方との会話以外、そこからは完全に英語の会話となりました。時には聞き取りもできなくて自分の英語力の低さを痛感させられました。セブでのマンツーマン授業では文法や語彙力、スピーキングなど、基礎を徹底した学習が多く基礎固めが手薄だった私にとっては土台を作り直すという意味ではとても良い勉強法だったなど実感しています。ニルスの先生方も合言葉のように「Don't be shy!!」と言ってくださって、積極性を大事にしてくれて、自分の意見をもっと外に出そうとしてくれて、とにかく楽しく学ぼうとさせてくれて、毎日の授業が楽しくとても充実してました。そのおかげで前より、人前で話したりすることや、自分の意見を言ったりすることが恥ずかしくなくなり自信を持てるようになりました。

土日も様々なアクティビティに参加し、セブを満喫しました。特にジンベイザメと泳いだことは、日本や他国では経験することの出来ないことなので、一緒に泳げたことに嬉しさを感じると共に連日の勉強の疲れを癒すことができました。

しかし、楽しさや充実した中にも現実を突きつけられる場面がありました。街を歩いていると、ストレートチルドレンがいたり、日本語で話しかけられることが多くあり当初はとても怖かったです。道路も横断歩道などなく自分達で渡れるか見極めて道を横切ったりと、日本では絶対にしないような事を経験しました。やはり、テレビで見るのと、自分が現地へ行って生活していく中で体験するのでは、考えさせられる度合いや感じる思いは違うなと感じました。3週間のセブ研修を通して英語力が上がったと言われると、正直な所 Yes とは答えがたいと思います。しかしこの経験からどう学んでこれからどう過ごしていくかによって、経験を活かすことができるか活かせないかは決まってくると思います。だからこそ、研修の3週間だけのものにするのではなく継続してこれからもコツコツと学び続け意味のあるものにしていきたいと思います。また日本という学習環境が十分に整っている環境で勉強できることに感謝しつつこれからの大学生活を有意義なものにしていきたいです。